

核兵器禁止条約の実現へ



3月、6月の国連会議に
ヒバクシャ国際署名
積み上げて

オランダ

NATO加盟国で唯一“反対”を断念

新婦人しんぶん 2016年12月8日号

「核兵器廃絶に署名を！」「今こそ核兵器禁止を！」とかかげるオランダの平和団体PAX（ボックス）のみなさん（写真中央が2016年原水爆禁止世界大会・女性のつどいに「女性平和基金」で招待したセルマ・ファン・オーストワードさん）。NATO加盟国が決議に反対するなか、オランダは唯一「棄権」に回りました。（写真提供 ©ステイファン・スヌープ）

1面 オランダ

議会と市民運動が政府を動かした！

セルマ・F・オーストワード (PAX人道的軍縮チーム)

オランダ議会は、核兵器禁止を求める私たちの提案を審議し関連する動議を採択して以降、政府に対して核兵器禁止条約を



支持するよう繰り返し求めています。国連の第1委員会が核兵器禁止条約の交渉開始に関する決議の採決が行われる1週間前、オランダのベルト・クーンデンス外相には、数千人の市民から「YES（賛成）票」を投じるよう促すメールが寄せられました。被爆者がオランダにきて議会で話し、外相にも会って歴史の正しい側について賛成票

を投じてほしいと求めました。アメリカがNATO加盟国に反対票を投じるように圧力をかけましたが、私たちの外相は、決議に反対するという選択肢はないとわかっていました。オランダが棄権票を投じたことは、議会と市民社会の強力な呼びかけによって変化を起こせるということを示しています。

この経験が他の運動、とりわけ核の傘の下にある国々での運動に、それぞれの政府に核兵器禁止条約に対する態度を変えるようにさらに迫っていく力になればと期待しています。

PAXは、ヒバクシャ国際署名を全面的に支持し賛同します。地上の地獄を経験した被爆者のアピールを通じて、私たちは核兵器禁止条約と核兵器廃絶への呼びかけをオランダに広げます。

セルマ・F・オーストワードさん

(29歳 オランダ・PAX)

NATO加盟国における核軍縮というのは特別な課題で「変えることが絶対に不可能だとさえ思える構造」です。

私のように若くて白人ではない女性がこうした構造に挑む活動をするのは、困難が多く、挫折感を味わうことも…。そんなとき、私の上司、スージー・スナイダー（2005年、06年招待）から「女性平和基金の招待を受け、新婦人に会って来なさい」といわれ、原水爆禁止世界大会に参加しました。



写真右がスージー・スナイダー

女性平和基金招待者も広げています！



サリー・ジョーンズ（2014年来日 アメリカ）
被爆者の核兵器完全禁止の呼びかけに賛同を呼びかけています



マデリン・ホフマン（2015年来日 アメリカ）
私は署名します。核兵器と人類は共存できないから。いいかげん、世界から核兵器をなくしましょう！



平等の権利は、人間の権利！